

2024年度の鉄道駅バリアフリー料金制度における整備等計画の進捗状況は以下のとおり

1. 整備費総額 19億81百万円

【内訳】設備・改良費： 14億72百万円

更新費： 3億76百万円

維持管理費・システム改修費： 1億32百万円

2. 設備・改良費の内容

・ホームドア整備（守口市駅 2・3番線 萱島駅 2・3番線）

・車両のフリースペース設置（7000系車両1編成）

3. 更新費の内容

・放送システム更新（システム自体の更新）

・放送システム機器更新（土居駅・郡津駅）

4. 維持管理費の内容

- ・維持管理費（ホームドア、エレベーター、運行情報配信システム

行先・列車接近表示器、放送システムのメンテナンス)

5. 2024年度の料金徴収によるホームドア設置番線数及び段差解消駅数

- ・ホームドア設置番線数 4番線

- ・段差解消駅数 0駅

6. 2024年度の徴収額 15億 8百万円

【内訳】 定期外 : 10億54百万円

定期券 : 4億54百万円

7. 2024年度までの累計額

整備費の累計 : 46億49百万円

徴収額の累計額 : 28億86百万円

- ・当社では、2024年12月3日に国土交通大臣宛に京阪線・大津線旅客運賃の変更認可申請をし、その後2025年3月25日認可を受け、10月1日から運賃改定を実施しております。
- ・運賃改定の実施にあわせて、2023年4月1日より京阪線で加算しておりました「鉄道駅バリアフリー料金」は同日廃止いたしました。
- ・なお、可動式ホーム柵をはじめとするバリアフリー設備の整備、維持更新は、引き続き計画的に実施してまいります。

主なバリアフリー設備の整備

(モニター付きインターホンの設置)

これまでのインターホンは基本的には音声だけのやり取りにとどまり、耳の不自由なお客さまとのやり取りは困難を伴い、別のシステム（スマホでインターフォン）でお客さまに通信料を負担してもらいながら、やり取りするなどのご不便をおかけしていました。

今回枚方管理区域内の駅に、モニター付きインターホンを導入し、お客さまとオペレーターとが画面越しに顔を見ながらやり取りができるようにしました。

今後も京阪線全駅に導入を予定して参ります。



モニター付きインターホン全体像



お客さま対応部分

御殿山駅のトイレリニューアル (2025年12月)

駅のトイレを利用されるお客さまの快適性・利便性向上を図るため、洋式化および内装替えなど全面的にリニューアル工事を実施。

(男子・女子・車いす利用者トイレ)



工事実施前



工事実施後